

キバシリ

Certhia familiaris

キバシリ科・留鳥



キバシリ

名前の由来

樹の幹を走り回るから“木走り（きばしり）”とついた。
漢字名：木走

魚類

底生動物

特定種

該当なし

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ
ウ

樹木

(在来種)
草花

(外来種)
草花

哺乳類

(水辺)
鳥類

(葦原・樹林)
ワシタカ
鳥類

形態的特徴

全長（くちばしの先から尾の先まで）13.5cm。スズメよりも小さく細身。くちばしは細長く、先端が下に曲がっている。

体の上面は茶褐色と白の縦じまで、樹皮のような模様である。下面は白い。飛ぶと翼に黄褐色の細い線が出る。

声：繁殖期には「ツイー、ツイツイツイ」あるいは「ツイツイツイツリリ」と細く高くさえずる。さえずりの期間は短いという。

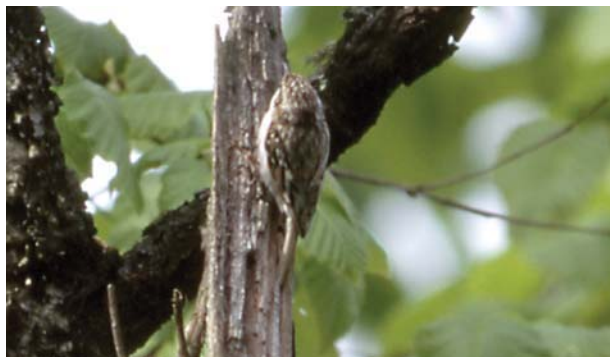
地鳴き（さえずりでない普通の鳴き方）では「ツイー」とか「ツリリ」というきわめて高く小さな声で鳴く。

飛び方や歩き方：飛ぶときは羽ばたいては休む、を繰り返して波のような飛行曲線を描く。

木の幹の下の方に縦にとまり、ジグザク、またはらせん状に上り、隣の木の根元に飛び移ってまた上る、ということを繰り返して餌を探す。



キバシリ。曲がったくちばし、茶褐色の背、白い腹



キバシリの背。茶褐色に白の縦じまで樹皮に似ている

生息環境・分布

低山から亜高山にかけての、比較的樹木が大きい樹林。

分布：ユーラシア大陸の中緯度地方を横断するように分布する。

日本では、北海道、本州、四国、九州に留鳥として生息する。

北海道では留鳥。低山帯から高標高にかけてのいろいろな森林に生息し、繁殖する。北海道に生息するものはキタキ

バシリという亜種(亜種とは、同じ種が地理的に隔離されることによって独自の分化をとげ、形態的に変化が確認できるもの)。

十勝では留鳥で、低山帯から高標高にかけてのいろいろな森林に生息し、繁殖する。冬は平地の森林にもいる。

生活サイクル

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
十勝出現期												
					繁殖							

食性・他生物との関わり

木の地衣類やコケ類の間、樹皮の裂け目などの細かい隙間に隠れている小型の甲虫、アブ、鱗翅類（ガなど）の幼虫、あるいはクモ類を食べる。

木の幹の下の方に縦にとまり、ジグザク、またはらせん状に上り、隣の木の根元に飛び移ってまた上る、ということを繰り返して餌を探す。先端が下に曲がったくちばしをいろいろな角度から隙間に差し込み餌を捕らえる。

捕食者は猛禽類など。



キバシリ。樹皮の隙間の虫を探す

繁殖生態

繁殖期は3～6月、一夫一妻で繁殖する。繁殖期には強いなわばりを持つ。

自分で穴は掘らず、立ち枯れた木の割れ目や樹洞の中に椀形の巣を作る。外装は樹皮片などとクモの巣を用い、内装には獣毛を敷くのだという。

4～5個産卵し、メスだけが卵を抱き、オスは餌を運ぶ。14～15日でヒナがかえると、オスメス共同でヒナを育てる。

14～15日くらいでヒナは巣立つ。

巣立ったヒナはしばらく群れていて、時折樹幹の一部にかたまって休んでいるという。

興味深い話

■木に縦にとまるが、木をつついたりはずせず、キツツキではない。

■春だけでなく秋にもさえずりがよく聞かれるという。

■秋から冬にかけて、しばしばシジュウカラの仲間やコゲラあるいはエナガなどと混群をつくる。

■餌を探しながら、木の幹を螺旋状に登っていくが、ゴジュウカラの様に下向きに下りてくることはない。

■尾羽の中軸が固く、先がとがっている。木に登る際にはこの尾羽の先を幹の表面に押しつけるようにして体を支え、よじ登るように登っていくという。

■縦の幹でなく、大枝の下面をよじ登ることもできる。

■木を降りるときには、後ろ向きで（バックして）降りることはできるが、頭を下にして降りることはできない。



キバシリ。尾羽を樹皮に押しつけるようにしてよじ登る

配慮事項

樹洞ができるような大きな木がある、成熟した樹林が大事。

参考文献

「山溪カラー名鑑 日本の野鳥」高野伸二 編、浜口哲一・森岡照明・叶内拓哉・蒲谷鶴彦 著、山と溪谷社 1985 (1995 2版21刷)
「原色日本野鳥生態図鑑(陸鳥編)」中村雅彦・中村登流、保育社 1995
「北海道鳥類目録改訂2版」藤巻裕蔵、帯広畜産大学野生動物管理理学研究室 2000
「野鳥ブックス2 フィールドガイド日本の野鳥」高野伸二・谷口高司・森岡照明・叶内拓哉、(財)日本野鳥の会 1982 (1994増補版7刷)
「北海道の野鳥」藤巻裕蔵・小堀煌治、北海道新聞社 1997

「十勝と釧路の野鳥」日本野鳥の会 十勝支部・釧路支部、1987
「図説 日本鳥名由来事典」菅原浩・柿澤亮三 編著、柏書房 1993
「野鳥の生活」羽田健三 監修、築地書館 1975

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)
草花

(外来種)
草花

哺乳類

(水辺)
鳥類

(葎原・樹林)
鳥類
ワシ・タカ